

2023 年度（令和 5 年度）  
卒業生に対する  
学修成果に関する調査報告

令和 6 年 4 月  
志學館大学 学務委員会  
志學館大学 IR室

## 1. 趣旨

学生が本学での4年間の学修の成果をどのように受け止めているかを調べるために、2023年度（令和5年度）卒業生全員を対象に、アンケート調査を実施した。

本学のディプロマ・ポリシー（以下、DPという。）とそれに基づくカリキュラムは、2018年度入学者より大幅に改定された。今回対象とした卒業生は、1年次からすでにスタートしていた新カリキュラムの下での教育を受けた学年であり、見方を変えると新カリキュラム3期生ということになる。なおこの間、各種IR報告をもとにした現行教育課程の検証結果を踏まえ、2023年度入学生からは、共通教育と専門教育の接続性を特に意識した新たな教育課程（当面の間、新新カリキュラムと呼ぶ。）がスタートしている。従ってこの新新カリキュラムの検証作業は、完成年度である2026年度以降に行うことになる（2026年度卒業生を含め、これ以降の卒業時アンケートが該当する）。

本報告において、特に断りのない場合、[ ]内の数値や記述は、卒業生に対して実施した過去の同様の調査（以下「2022調査」「2021調査」「2020調査」「2019調査」「2018調査」という）における値を示し、同順で直近のものから表記してある。

## 2. 資料と調査方法

アンケートの設問は14項目とした。これらの項目は、今回の調査対象である2023年度卒業生（2020年度入学生）の入学時のDPを基に6つのカテゴリーに分けられるので、DPカテゴリーと対応させて以下に示す。これらの項目は、2018調査以来、変えていない。このDPは、巻末に付録として示してある。ただし2023年度にDPの改定を行ったため、次回2024調査から用いる設問はいくつか修正予定である。予定項目も巻末に示した。

- |     |                             |
|-----|-----------------------------|
| DP1 | Q1. 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性     |
| DP2 | Q2. 人類の文化、社会と自然に関する教養       |
|     | Q3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力     |
|     | Q4. コンピュータの操作方法や情報処理技術      |
|     | Q5. コミュニケーションの能力            |
|     | Q6. 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢  |
| DP3 | Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能     |
|     | Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力    |
| DP4 | Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え  |
|     | Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力    |
| DP5 | Q11. 倫理観                    |
|     | Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 |
| DP6 | Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解      |
|     | Q14. 国際人として活躍する素地           |

各項目について、「大学でのさまざまな学修によって、設問の能力や知識を身につけたと感じているか」を問い、「4. 大変身についてた」、「3. 身についた」、「2. 少しは身についた」、「1. 身につかなかった」の4つの選択肢から回答を求めた。

調査は、ユニバーサルパスポートシステムを用いて行った。なお、卒業式の日までに未回答であった者を対象として、付加・補完的に紙ベースの追加調査も行ったことに変更はない。

## 3. 分析結果

### 3.0 回答者の属性

評価対象者（卒業生）は362 [335, 312, 295, 270, 256]人で、回答率は、96% [98%, 93%, 90%, 84%, 89%]で本調査開始以来、最も高かった2022調査には及ばないものの2番目に高く、未回答者は13名であった（表1）。学科ごとの回答率は、心理臨床学科（以下、心臨）96% [99%, 94%]、人間文化学科（以下、人文）98% [98%, 100%]、法律学科（以下、法律）95% [98%, 89%]、法ビジネス学科（以下、法ビ）98% [98%, 90%]であった。

回答の方法は学科間でやや相違はあるものの全体では、77% [84%, 82%, 80%]がユニパを

通じて行っており、データ収集の方法としては妥当であった判断できるが、例年に比すると幾分低めであり、データ収集の効率化を図る意味でこれを高く維持できるようにありたい。

これに対応して、紙ベースによる回答割合が若干高まり 20% [15%, 11%, 10%] (心臨 20% [17%, 8%, 10%], 人文 9% [4%, 16%, 2%], 法律 18% [18%, 9%, 12%], 法ビ 40% [14%, 19%, 16%])], 無回答は 4% [2%, 7%, 10%] 13名であった(表1(補足))。法律を除き、いずれの学科でも紙ベースでの回答の割合が増加しており、法ビで特に顕著であった。

各学科及び学士課程全体(以下「全学」という。)の学生の回答の平均値、標準偏差、最頻値を表2~15に示す。なお、以下の結果を理解するために、すべての回答の平均値は 3.24

[3.15, 3.15, 3.12, 3.12, 3.14]であったことに留意されたい。調査開始以降、ほぼ横ばいであったが、今回は一段高くなっている。

表1 調査対象及び回答者の数

学科	対象学生数	回答者数	回答率 (%)
心理臨床	135 [134, 127, 111, 105, 97]	130 [132, 120, 104, 103, 80]	96 [99, 94, 94, 98, 82]
人間文化	64 [57, 57, 52, 46, 40]	63 [56, 57, 48, 40, 37]	98 [98, 100, 92, 87, 93]
法律	118 [101, 97, 87, 75, 68]	112 [99, 86, 75, 49, 62]	95 [98, 89, 86, 65, 91]
法ビジネス	45 [43, 31, 45, 44, 41]	44 [42, 28, 38, 31, 39]	98 [98, 90, 84, 70, 95]
合計	362 [335, 312, 295, 270, 246]	349 [329, 291, 265, 226, 218]	96 [98, 93, 90, 84, 89]

表1(補足) 学科別の回答方法の比較 (%)

学科	ユニパ	紙	無回答
心理臨床	76 [81, 87, 84]	20 [17, 8, 10]	4 [2, 6, 6]
人間文化	89 [95, 84, 90]	9 [4, 16, 2]	2 [2, 0, 8]
法律	77 [80, 79, 75]	18 [18, 9, 12]	5 [2, 11, 14]
法ビジネス	58 [84, 71, 69]	40 [14, 19, 16]	2 [2, 10, 16]
合計	77 [84, 82, 80]	20 [15, 11, 10]	4 [2, 7, 10]

### 3.1 個性的かつ堅実な人間性, 自主性, 創造性 (Q1)

この設問は、本学の建学の精神に関連するものである(表2)。全学平均値は 3.3 [3.3, 3.2, 3.2, 3.2, 3.0] で、昨年度 2022 調査と同値であったが、調査開始以降わずかずつではあるが上昇してきている。各学科の平均値は心臨 3.3, 人文 3.2, 法律 3.4, 法ビ 3.4 であった。最頻値は全学では 4, 心臨と人文で 3, 法律と法ビで 4 だった。法ビは 2 年続けて最頻値 4 であった。

表2 Q1 に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.74)	3	3.1(.86)	3	3.2(.81)	3
人間文化	3.0(.76)	3	3.2(.59)	3	3.4(.65)	4
法律	3.0(.71)	3	3.3(.66)	3	3.3(.78)	4
法ビジネス	3.0(.79)	3	3.2(.76)	3	3.2(.64)	3
全学	3.0(.74)	3	3.2(.77)	3	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.72)	3	3.2(.79)	3	3.3(.69)	3
人間文化	3.1(.74)	3	3.4(.75)	4	3.2(.68)	3
法律	3.3(.70)	3	3.4(.61)	3	3.4(.71)	4
法ビジネス	3.2(.63)	3	3.2(.77)	4	3.4(.62)	4
全学	3.2(.71)	3	3.3(.74)	3	3.3(.69)	3

### 3.2 人類の文化，社会と自然に関する教養 (Q2)

この設問は，主に教養教育あるいは共通教育に関連するものである（表3）。なお，人間文化学科では，専門教育全体とも関連していると思なせる。

全学での平均値は3.2 [3.1, 3.1, 3.1, 3.1, 2.9] で，学科間では，法律と法ビが3.4で最も高く，過去5年間で通算4回最も高値を取った人文は3.3であった。心臨は例年低値にとどまる傾向にあるが，今回は最も低く3.1だった。最頻値は全学では3で，法律と法ビで4，他の2学科は3だった。2022調査では，Q14とともに学科間の差異が大きい項目（0.5以上の差異）であった（他にQ4, Q5, Q8, Q12, Q13, Q14）が，今回は0.3程度になった。

表3 Q2に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	2.9(.83)	3	3.0(.85)	3
人間文化	3.1(.89)	3	3.1(.76)	3	3.4(.67)	4
法律	2.8(.75)	3	3.3(.71)	3, 4	3.1(.69)	3
法ビジネス	2.8(.76)	3	3.2(.72)	3	2.9(.74)	3
全学	2.9(.77)	3	3.1(.79)	3	3.1(.77)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.73)	3	3.0(.79)	3	3.1(.77)	3
人間文化	3.3(.73)	3	3.4(.75)	4	3.3(.60)	3
法律	3.1(.71)	3	3.1(.72)	3	3.4(.76)	4
法ビジネス	3.1(.81)	3	2.9(.75)	3	3.4(.65)	4
全学	3.1(.74)	3	3.1(.77)	3	3.2(.73)	3

### 3.3 物事を科学的に，論理的に考える方法や力 (Q3)

全学での平均値は3.3 [3.2, 3.1, 3.1, 3.1, 3.0] で，学科間の差異が小さい項目の1つであった（他にQ1, Q3, Q6, Q7, Q9, Q10, Q12）（表4）。最頻値は，全学が4，法律で4，他3学科はいずれも3だった。学科別みると，最頻値3が3学科と多いが，調査開始以降はじめて全学の最頻値が4になった。

表4 Q3に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.86)	3	3.0(.80)	3	3.1(.86)	3
人間文化	3.1(.88)	3	3.2(.75)	3	3.1(.79)	3
法律	3.0(.86)	3	3.3(.62)	3	3.2(.77)	3
法ビジネス	3.0(.84)	3	3.1(.83)	3	3.1(.71)	3
全学	3.0(.85)	3	3.1(.77)	3	3.1(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.77)	3	3.2(.80)	3	3.2(.70)	3
人間文化	3.0(.78)	3	3.2(.90)	4	3.2(.79)	3
法律	3.1(.71)	3	3.2(.71)	3	3.4(.70)	4
法ビジネス	3.3(.66)	3	3.1(.71)	3	3.3(.69)	3
全学	3.1(.78)	3	3.2(.78)	3	3.3(.72)	4

### 3.4 コンピュータの操作方法や情報処理技術 (Q4)

全学での平均値は3.0 [3.0, 3.0, 2.9, 3.0, 2.9] で、評価が低かった設問（他はQ14の2.8）の1つである（表5）。学科間の差異は、2021調査では特異的に低くなったが、例年、学科間差異が大きいところで、法ビで3.2と最も高く、心臨が2.9で最も低かった。平均値で2点台が出現するのは、Q14を除けば、ここだけである。最頻値は、全学が3、法律で4、それ以外の学科は3であった。

表5 Q4に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3	2.9(.78)	3	3.1(.77)	3
人間文化	3.1(.74)	3	3.0(.82)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.87)	3	3.0(.82)	3, 4	2.8(.89)	2
法ビジネス	2.8(.87)	2	3.1(.70)	3	2.7(.65)	3
全学	2.9(.82)	3	3.0(.78)	3	2.9(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3	3.0(.80)	3	2.9(.74)	3
人間文化	3.1(.79)	3	3.2(.77)	4	3.1(.71)	3
法律	3.0(.82)	2	2.9(.82)	3	3.1(.85)	4
法ビジネス	3.0(.88)	3	3.1(.66)	3	3.2(.77)	3
全学	3.0(.81)	3	3.0(.79)	3	3.0(.79)	3

### 3.5 コミュニケーションの能力 (Q5)

全学の平均値は、3.3 [3.2, 3.2, 3.2, 3.2, 3.1] で、学科別では法律が3.4と高く、人文が3.1で低かった。学科間の差異が比較的大きい設問の1つである（表6）。最頻値は、調査開始以降初めて全学及び全学科で全て4となった。今回（2023調査）、最頻値が全て4となったのは、Q7（専門的知識）以外ではここだけである。

表6 Q5に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.80)	3	3.0(.87)	3	3.0(.90)	4
人間文化	3.2(.78)	3	3.2(.71)	3	3.4(.84)	4
法律	3.0(.85)	3	3.6(.64)	4	3.4(.76)	4
法ビジネス	3.1(.90)	4	3.2(.67)	3	3.2(.65)	3
全学	3.1(.82)	3	3.2(.80)	4	3.2(.83)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.77)	3	3.2(.80)	3	3.3(.80)	4
人間文化	3.1(.75)	3	3.2(.88)	4	3.1(.85)	4
法律	3.2(.81)	4	3.3(.69)	3	3.4(.70)	4
法ビジネス	3.2(.83)	4	3.1(.88)	3, 4	3.3(.71)	4
全学	3.2(.78)	3	3.2(.79)	4	3.3(.77)	4

### 3.6 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢 (Q6)

全学の平均値は3.3 [3.3, 3.2, 3.2, 3.3, 3.1] と、例年、平均値が高い設問のひとつである。学科間差異は2020 調査で0.5 と大きかったが、今回2023 調査では0.2 [0.2, 0.2, 0.5] と3年続けて小さくなっている。法律が3.4 で最も高く、心臨が3.2 で低かった。最頻値は全学と法律、人文で4、心臨と法ビが3であった(表7)。

表7 Q6に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.84)	4	3.2(.78)	3	3.2(.76)	3
人間文化	3.2(.89)	4	3.3(.73)	4	3.4(.67)	3
法律	3.1(.76)	3	3.4(.73)	4	3.2(.75)	3
法ビジネス	3.2(.79)	3	3.1(.93)	4	2.9(.77)	3
全学	3.1(.81)	3	3.3(.78)	4	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.70)	3	3.3(.79)	4	3.2(.78)	3
人間文化	3.2(.78)	3	3.3(.77)	4	3.3(.76)	4
法律	3.3(.76)	4	3.3(.67)	3	3.4(.72)	4
法ビジネス	3.1(.77)	3	3.1(.78)	3	3.3(.73)	3
全学	3.2(.74)	3	3.3(.75)	3, 4	3.3(.75)	4

### 3.7 専門分野や所属する学科の専門知識や技能 (Q7)

全学の平均値は3.4 [3.3, 3.3, 3.2, 3.3, 3.2] で、2022 調査及び2021 調査に引き続き、全学平均値3.4 と最も高い項目のひとつであった(もう一つはQ11)。学科別では、人文と法律が3.5 で高く、心臨3.3、法ビ3.4 で、いずれの学科も総じて高い。人文及び法律の平均値3.5 は、全ての設問の中で最も高評価の値である。最頻値は、法ビで3 と4 が同数であるものの、全学及び全ての学科で4 となった。

表 8 Q7 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.72)	4	3.2(.76)	4	3.2(.83)	4
人間文化	3.0(.82)	3	3.3(.72)	3	3.4(.74)	4
法律	3.2(.75)	3,4	3.4(.73)	4	3.1(.85)	3,4
法ビジネス	3.1(.83)	4	3.3(.78)	4	3.0(.72)	3
全学	3.2(.77)	3	3.3(.74)	4	3.2(.81)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.70)	4	3.3(.75)	4	3.3(.69)	4
人間文化	3.2(.71)	3	3.4(.80)	4	3.5(.62)	4
法律	3.2(.75)	3	3.3(.71)	4	3.5(.70)	4
法ビジネス	3.3(.60)	3	3.1(.84)	4	3.4(.59)	3,4
全学	3.3(.71)	3	3.3(.76)	4	3.4(.67)	4

### 3.8 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力 (Q8)

この設問は、課題発見・解決型教育やアクティブラーニングに関連するものである(表9)。

平均値は、全学では3.2 [3.2, 3.1, 3.1, 3.1, 3.0] で、この5年間で微増傾向にある。法律と法ビで3.4と高く、心臨と人文で3.1であった。最頻値は、法律だけが4で、他3学科と全学では3だった。

表 9 Q8 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	3.0(.76)	3	3.1(.81)	3
人間文化	3.0(.83)	3	3.1(.74)	3	3.2(.69)	3
法律	3.1(.78)	3	3.4(.69)	3	3.1(.88)	3
法ビジネス	2.9(.79)	3	3.3(.58)	3	3.1(.69)	3
全学	3.0(.78)	3	3.1(.73)	3	3.1(.79)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.70)	3	3.1(.76)	3	3.1(.68)	3
人間文化	2.9(.66)	3	3.2(.89)	4	3.1(.75)	3
法律	3.2(.68)	3	3.2(.67)	3	3.4(.66)	4
法ビジネス	3.2(.77)	3	3.0(.85)	3,4	3.4(.61)	3
全学	3.1(.70)	3	3.2(.77)	3	3.2(.69)	3

### 3.9 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え (Q9)

この設問は、主にキャリア教育及び職業観の涵養に関連するものである(表10)。

平均値は、全学では3.3 [3.2, 3.2, 3.3, 3.2, 3.1] で、法律と法ビが3.4、心臨3.3、人文3.2であった。最頻値は、心臨だけ3で残り3学科と全学では4だった。

表 10 Q9 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1 (.83)	3	3.1 (.83)	4	3.2 (.86)	4
人間文化	3.1 (.88)	3	2.9 (.84)	3	3.3 (.69)	3, 4
法律	3.1 (.85)	4	3.6 (.61)	4	3.4 (.67)	4
法ビジネス	3.3 (.85)	4	3.4 (.66)	3, 4	3.3 (.69)	3
全学	3.1 (.84)	4	3.2 (.79)	4	3.3 (.76)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2 (.84)	4	3.2 (.85)	4	3.3 (.70)	3
人間文化	3.0 (.88)	3	3.2 (.89)	4	3.2 (.85)	4
法律	3.3 (.86)	4	3.4 (.63)	3	3.4 (.74)	4
法ビジネス	3.3 (.82)	4	3.1 (.83)	3, 4	3.4 (.66)	4
全学	3.2 (.85)	4	3.2 (.79)	4	3.3 (.74)	4

### 3.10 生涯にわたって学習を続けていく意思や力 (Q10)

この設問は、生涯学習能力の涵養に関連するものである (表 11)。

平均値は、全学で 3.3 [3.3, 3.2, 3.2, 3.2, 3.1] でこの微増傾向にあるが、6 年間で大きな変化はない。学科別では法律が 3.4 と高く、心臨が 3.2 で低かった。最頻値は、全学が 3 と 4 の同数、法律が 4 で、その他の 3 学科は 3 だった。

表 11 Q10 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1 (.85)	3	3.2 (.80)	3	3.2 (.83)	4
人間文化	3.1 (.88)	3	3.3 (.75)	4	3.3 (.68)	3
法律	3.0 (.86)	3	3.4 (.67)	4	3.2 (.81)	4
法ビジネス	3.2 (.94)	4	3.2 (.78)	3	3.1 (.71)	3
全学	3.1 (.87)	4	3.2 (.76)	3	3.2 (.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2 (.74)	3	3.2 (.80)	4	3.2 (.71)	3
人間文化	3.1 (.72)	3	3.2 (.90)	4	3.3 (.71)	3
法律	3.1 (.81)	3	3.3 (.70)	3, 4	3.4 (.76)	4
法ビジネス	3.2 (.74)	3	3.1 (.89)	4	3.3 (.67)	3
全学	3.2 (.76)	3	3.2 (.80)	4	3.3 (.72)	3, 4

### 3.11 倫理観 (Q11)

平均値は、全学で 3.4 [3.3, 3.2, 3.2, 3.2, 3.0] と高く、微増傾向にある事に変化はない (表 12)。全学で、前回 2022 調査で、この設問は初めて高い評価を得た項目に入ってきたが、今回はこれに加えて最も高い評価を得た設問の 1 つ (もう 1 つは Q7 専門的知識) になった。また法律で 3.5 と、学科別に見たときの値としても最も高いものとなった。最頻値は、法律と全学で 4、他の 3 学科で 3 であった。

表 12 Q11 に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.90)	3	3.2(.81)	3	3.2(.82)	4
人間文化	3.1(.88)	3	3.1(.67)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.83)	3	3.2(.62)	3	3.2(.76)	3
法ビジネス	3.0(.78)	3	3.3(.68)	3	3.1(.70)	3
全学	3.0(.85)	3	3.2(.73)	3	3.2(.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.75)	4	3.2(.83)	4	3.3(.70)	3
人間文化	3.1(.81)	3	3.4(.71)	4	3.3(.70)	3
法律	3.2(.74)	3, 4	3.3(.69)	4	3.5(.55)	4
法ビジネス	3.3(.70)	3	3.1(.84)	3	3.4(.57)	3
全学	3.2(.76)	3	3.3(.77)	4	3.4(.66)	4

### 3.12 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 (Q12)

平均値は、全学で 3.2 [3.1, 3.1, 3.2, 3.1, 3.0] で大きな変化はない (表 13)。学科別では法律 3.4, 法ビ 3.4, 人文 3.2, 心臨 3.1 であった。最頻値は心臨が 3 で、全学及び他 3 学科では 4 であり、この傾向は 2 年連続で出現している。

表 13 Q12 に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.87)	3	3.0(.93)	3	3.0(.89)	3
人間文化	3.1(.86)	3	3.0(.77)	3	3.2(.83)	3
法律	3.0(.79)	3	3.3(.72)	4	3.3(.77)	4
法ビジネス	3.1(.87)	3	3.2(.82)	3	3.3(.86)	4
全学	3.0(.84)	3	3.1(.85)	3	3.2(.84)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.78)	3	3.1(.90)	3	3.1(.78)	3
人間文化	3.1(.81)	3	3.2(.85)	4	3.2(.87)	4
法律	3.2(.88)	4	3.2(.81)	4	3.4(.73)	4
法ビジネス	3.3(.70)	3	3.1(.89)	4	3.3(.76)	4
全学	3.1(.81)	3	3.1(.86)	4	3.2(.78)	4

### 3.13 多様な言語・社会・文化に対する理解 (Q13)

この設問は、異文化理解、多文化共生と呼ばれる領域に関連するものである (表 14)。

全学の回答の平均値は 3.2 [3.1, 3.1, 3.0, 3.2, 2.9] であり、2019 調査で大きく上昇して以降、大きな変化はない。学科別では、心臨が 3.0 と突出して低く、全学及び他 3 学科は 3.2 か 3.3 である。最頻値は心臨が 3 で、全学及び他 3 学科は 4 であった。

表 14 Q13 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.8(.89)	3	3.1(.89)	4	2.9(.89)	2
人間文化	3.2(.83)	4	3.2(.74)	3	3.4(.68)	4
法律	3.0(.80)	3	3.2(.77)	3	3.0(.82)	3
法ビジネス	3.0(.81)	3	3.3(.79)	4	2.8(.92)	3
全学	2.9(.85)	3	3.2(.82)	3,4	3.0(.86)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.72)	3	3.0(.85)	3	3.0(.82)	3
人間文化	3.1(.73)	3	3.4(.68)	4	3.3(.72)	4
法律	3.1(.82)	3	3.1(.77)	3	3.2(.80)	4
法ビジネス	3.0(.92)	3	3.0(.78)	3	3.3(.71)	4
全学	3.1(.77)	3	3.1(.80)	3	3.2(.79)	4

### 3.14 国際人として活躍する素地

この設問は、いわゆるグローバル人材育成に関連するものである（表 15）。

全学の回答の平均値は 2.8[2.7, 2.7, 2.6, 2.8, 2.6] で、過去 5 カ年の調査と同じく全設問中でもっとも低かった。学科別では、法律と法ビで 3.1 だったが、人文 2.9、心臨 2.5 で低かった。学科間の差異は、全設問中、最も大きかった。学科ごとに見ても、全ての学科において、平均値が最も低い設問であり、この傾向は調査開始以降続いている。

最頻値は、心臨が 2、人文が 2、3 同数、法律が 4、法ビが 3、全学で 3 であり、心臨は 6 年連続で 2 であった。複数の学科で最頻値に 2 が出現するのはこの項目だけであり（3 年連続）、2022 調査で最頻値に 2 が出現するのはここだけであった。ただしこれまでと同じように、全設問中もっとも標準偏差が大きい項目でもあり、獲得実感の個人差も大きいことも分かる。

表 15 Q14 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.4(1.03)	2	2.5(.99)	2	2.5(.96)	2
人間文化	2.9(.95)	3	2.8(.78)	3	2.9(.89)	3
法律	2.6(.99)	2	2.9(.90)	3	2.7(.94)	2
法ビジネス	2.7(.85)	3	3.0(.78)	3	2.6(.89)	3
全学	2.6(.99)	3	2.8(.93)	3	2.6(.94)	3,4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.7(.85)	2	2.6(.96)	2	2.5(.84)	2
人間文化	2.8(.94)	3	3.1(.96)	4	2.9(.87)	2,3
法律	2.7(.92)	2,3	2.7(.93)	3	3.1(.94)	4
法ビジネス	2.7(1.01)	3	2.8(.93)	2	3.1(.90)	3
全学	2.7(.90)	3	2.7(.96)	2	2.8(.92)	3

## 4. まとめ

### 4.1 設問項目ごとの結果のまとめ

本調査では、全回答数 4886 [4606, 4074, 3710, 3162, 3052] のうち、42% [39%, 36%] が選択肢 4 を占めた。例年最も多かった選択肢 3 は 41% [41%, 44%, 41%, 43%, 41%] であった。2023 調査の特徴的な点の 1 つである。

また設問ごとの回答平均値の大半が  $3.0 \pm 0.3$  程度にあり、過去 5 カ年間の調査と同様「中庸」的な結果であった。しかしながらごく少数ではあるが、それら以外（平均値 3 から離れた値であったり、最頻値が 2 や 4 であった場合など）の事項から、DP に掲げる教育達成目標の実現度を学生がどのように感じているか、ある程度浮き彫りにできたと考える。

全学で回答平均値が高く、全学最頻値 4、学科最頻値 4 が多い設問は、学生の達成感が高いと判断した。この群には、2019 調査では「自ら学ぶ姿勢(Q6)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」が、2020 調査では「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」が入っていた。2021 調査では「職業観(Q9)」だけであったが、2022 調査では「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「地域貢献意識(Q12)」の 4 項目が入った。今回 2023 調査では、「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」「異文化等の理解(Q13)」の 5 項目が入った。調査回により多少の出入りはあるが、Q7 や Q9, Q12 などは安定的に出現してくる。前回 (2022 調査)、「倫理観(Q11)」がこの群に初めてリストされたが、今回は同基準からは漏れたものの平均値は最も高く、最頻値 3 も 4 に肉薄していることから、全学的に達成感の高い観点とリストできると判断する。

一方、回答の傾向が上記と逆の場合（全額平均低、全学最頻値が 4 ではない、学科最頻値 4 が少ない）は、達成感が低いと判断できる。これには、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人として素地(Q14)」が当てはまり、Q14 は過去 4 カ年と同じであった。ただし Q14 は先述の通り、これまでと同様に全学でも学科別でも標準偏差も総じて高く、個人差が大きい観点と言える。一方、Q4 は今回 (2023 調査) はじめてこの群に加わった。

回答平均値の学科間での差が小さく（平均値で 0.1 程度）、全学での標準偏差が大きくない設問は、比較的全学一様な教育になっていると判断した。2022 調査ではこの群に「科学的論理的思考力(Q3)」「地域貢献意識(Q12)」が、2021 調査では「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「異文化等の理解(Q13)」が、2020 調査では「科学的論理的思考力(Q3)」「問題発見・解決能力(Q8)」「倫理観(Q11)」が、また 2019 調査では「个性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「異文化等の理解(Q13)」が入っていた。今回 (2023 調査) ではこの基準に落ちる設問はなく、学科間の差異は全て 0.2 以上であった。

一方、逆の場合（学科間の差が大きく（平均値で 0.5 以上）、全学での標準偏差が大き）は、学生の達成感に学科間での差が大きかったと言える。これには 2022 調査では「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「国際人の素地(Q14)」が、2021 調査では「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「科学的論理的思考力(Q3)」「問題発見・解決能力(Q8)」「職業観(Q9)」が、2020 調査では「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「自ら学ぶ姿勢(Q6)」「異文化等の理解(Q13)」が、また 2019 調査では「国際人の素地(Q14)」が入っていた。今回 (2023 調査) では、「国際人の素地(Q14)」がこの基準に合致する。

### 4.2 学科平均値の比較による各学科の特色

2023 調査における各学科の特色は、次の通りである。

#### (心理臨床学科)

2023 調査での学科間比較で、心臨は総じて低位であった。学科間の比較で最高位となったものは 1 つもなく、最低位となったものが 11 あった。特に「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」は 4 学科中最低位に加えて、平均点がそれぞれ 2.9 と 2.5 で 3 を割り込んでいる。その他の観点の平均点は 3（評語「身についた」）を超えているものの、評価が低いこういった傾向はこれまでの調査では見られなかったものである。また最頻値が 4 となった観点は 2 つしかなく、他学科と比較しても極めて少ない（最頻値 4 となった観点数：人文 6/14、

法律 14/14, 法ビ 7/14)。「国際人の素地(Q14)」にあつては最頻値 2 (評語「少しは身についた」)であった。心臨の学生は、その学問的特徴から内的事象を間隔尺度上に表現することに親和的なことが多いだろうし、各種データ収集に際してリッカートタイプの質問項目を使用する場合もあっただろう。こういった経験がいわば辛めの評価を生み出した可能性も考えられるものの、他学科との比較によって何らかのアセスメントを行うのであれば、次年度以降の調査結果を注意深く見ていく必要がある。

#### (人間文化学科)

前回 2022 調査での人文はいずれの評価軸においても突出して高かったが、今回 2023 調査では相対的に低位に留まった。学科間比較で最高位となった観点は 14 観点中 2 つで、最低位は 7 つあった。それでも「専門知識や技能(Q7)」の平均値は、全観点中最も高い 3.5 であった。2022 調査で高かった「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」「異文化等の理解(Q13)」「国際人の素地(Q14)」は、Q13 を除き、低位となった。Q13 (異文化等の理解)は変わらず最高位であった。最頻値 4 となった観点は 6 つあり、「国際人の素地(Q14)」では最頻値 2 となったが、こゝは 3 と同数であった。

#### (法律学科)

今回 2023 調査では法律の高さが顕著であった。法律は、2022 調査では 14 観点中 8 つで人文に次いで多かったが、今回 2023 調査では、12 観点で学科間比較最高位となり、最低位となった観点はない。この 13 観点のうち、9 つが平均値 3.4 で、「専門知識や技能(Q7)」と「倫理観(Q11)」では平均値が 3.5 で、目立って高い。全学的に総じて低い「国際人の素地(Q14)」でも、3.1 を示している(Q14 の最頻値も 4)。最頻値 4 となった観点は、前々回 2021 調査では全学科中最も多かったが、前回 2022 調査では 3 つ留まっていたところ、今回は 14 観点全てで最頻値 4 となった。言うまでもなく、法律の学生の多数が 14 観点について「大変身について」と感じていることになる。

#### (法ビジネス学科)

前回 2022 調査では、法ビは学科間比較で最高位となった観点がなく、最低位となった観点は 14 観点中 12 であった。今回 2023 調査では、最高位となった観点が 7 つ、最低位となった観点はなかった。前回 2022 調査で 3.0 を下回って目立って低かった「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」は、法律と並んで最高位で 3.4 となっていた。最頻値 4 となった観点は 7 つあり、法律に次いで多かった。特に今回際だって高い法律が最高位ではない 2 観点、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「異文化等の理解(Q13)」は法ビが最高であった。

#### (全学)

あらためて 2023 調査の全学での傾向を見てみると、2022 調査に比して、全学の平均値は 14 観点全てで、同値か、わずかながら増加しており、減少した観点はなかった。このトレンドは 3 年連続となる。

また学科間の平均値の差異は、今回は最大で 0.6 [0.5, 0.3, 0.6] であり、仮に差異 0.3 を基準に取れば 7 つ [7 つ, 4 つ] あった。このうち特に「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」は過去 3 年連続で学科間差異の大きな観点であったが、今回 2023 調査では差異 0.3 と小さくはないものの前回(2022 調査) 0.5 に比すれば、改善傾向にあると評価できる。今回 2023 調査で学科間差異の最も大きな観点は、「国際人の素地(Q14)」で最高位(法律, 法ビ) 3.1 と最低位心臨 2.5 で、差異 0.6 を数える。Q14 は例年人文が高く、心臨や法ビで低いが、今回人文は 2.9 で、3 を割り込んで低く、法ビは 3.1 で高かった。心臨は 2.5 で変わらず低い。

平均値が相対的に高く(3.2 以上)、最頻値が 4 となっている学科が多い観点は、2020 調査及び 2021 調査では「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」の 4 つ、2022 調査では「専門知識や技能(Q7)」「生涯学習能力(Q10)」「倫理観(Q11)」「地域貢献意識(Q12)」の 4 つがこれに該当する。今回 2023 調査では、「コミュニケーション能力(Q5)」「専門知識や技能(Q7)」「職業観(Q9)」「地域貢献意識(Q12)」「異文化等の理解(Q13)」で、観点の出入りがあったとしても、DP を束ねて本学が重視してきた部分と概ね合致していると言える。

全学的に学生の獲得感が得られていない観点(3.0 以下)は、過去 3 年(2020 調査, 2021 調査, 2022 調査)では「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」の 2 つであったが、今回 2023 調査でも、やはりこの 2 つであった。このうち「コンピュータ・情報処理技

術(Q4)」は4年連続、「国際人の素地(Q14)」にあつては5年連続ということなる。この2つについては、本学の教育は学生に十分なインパクトを与えることができていないといえるかもしれない。

斯様な結果に対する対応は次の通りである。まず「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」については、2023年度にICTを利活用した全学的な教育改善の動きが始動しているため、これらがパッケージとして具体的にプログラム化されるのを待ちたい。また「国際人の素地(Q14)」の出自となるDP6は、DP6が持つ本来の趣旨により沿う形で、2023年度にその表現を改めた。これに伴い、次回調査(2024調査)からは、Q14は「多様な人々と共生・協働できる素地」に変更されることになるだろう。後段でも述べるが、これにより当該観点の見え方は異なってくる可能性がある。

#### 4.3 DP項目ごとの受け止め方

各設問の回答を、6つのDPカテゴリ別にまとめて分布を調べた。図6に今回の[2023調査]結果を示し、図1から図5は順に過去の調査結果である。

これまでの調査結果では、各DPの分布の形は2つのグループに分けることができる。1つは3にモードを持ち、左に裾を引くもの(Aグループ)と今ひとつは3及び4にモードを持つもの(Bグループ)である。典型的にはDP1, DP2, DP3, DP6がグループAで、DP4, DP5がグループBである。これまでの変化をまとめると、DP5は[2019調査]及び[2018調査]ではグループAであったが、[2020調査]ではグループBに近くなり、[2021調査]ではDP4とほぼ同型で、グループBに含まれるようになった。DP6は大きく分けるとグループAだが、その中でも幾分異なり、全体的なピークが低く、2と1の比率が比較的高い。[2022調査]ではDP1とDP3がグループBに近くなり、グループAに分類できるのはDP2とDP6となっているところが特徴的であった。[2023調査]では、グループAに分類されていたDP2がグループBにより近くなり、DP6もわずかにその特徴を残すのみとなっている。従って、6つのDPのほとんどが、グループBの特徴を持つようになってきている点が特徴的である。

上記の結果は、従前、継続的に高かったDP4「職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している」とDP5「倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている」に加えて、年々、DP1「個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性」とDP3「専門的知識・技能と総合的な問題発見・課題解決能力を持っている」の高まりが見て取れ、今回それがより顕著になった、と評価できる。またこれまで変化がなかったDP2「豊かな教養と科学的論理的思考法、情報技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている」も、今回(2023調査)は高まりの兆しが見えると評価できる。

またDP6「多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている」すなわちグローバル化対応能力の達成度は、依然としてなおやや低いと学生が感じていることを示唆している、とまとめることができる。ただし、先述の通り、2023年度にDP6はその表現を改めた。これに伴い、従前の質問項目が、DP6が本来的に狙っていたところとは別の場所を評価していたとも捉えることができるため、DP6に対応するQ13とQ14はその表現は修正されることになる。Q14については、順当に「多様な人々と共生・協働できる素地」への変更で良い。しかしながらQ13については、新しいDP6に対応した「世界の言語・社会・文化に対する理解」とはせず、現行のまま「多様な言語・社会・文化に対する理解」にしておいた方が良いだろう。「世界の」とした場合の語感、Q14への低評価を生んでいたのと同じ理由で、DP6の狙いとは別の印象を惹起する可能性が高いためである。いずれにしても今後の結果を見守りたい。

#### 4.4 本学の個性・特色の反映等

上記の結果から、これまでの調査結果に引き続き、本学がその個性・特色として標榜している事項の中で、「学生の社会参画意識を育む大学」、「地域とともに歩む大学」は、学生が獲得できたと感じていると評価できる。

また倫理観に関連する「コンプライアンスと誠実性」については、継続的に高まりつつある一方、教養教育と関連する「人間力教育」を獲得したと感じている学生は、なお学科間の差異が小さくなく、全学的には波及しているとまでは評価できない。

平成20年度中教審答申が提起した「学士力」の中で、専門分野に関わらず求められている、

「汎用的技能」のうち、「コミュニケーション・スキル」は得られたとしているが、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」が得られたかについては、学科間の差異が小さくないものの、いくつかでは向上傾向もあるとまとめることができる。

## 5. 結語

この調査は大学4年間の学びを通じた、卒業時の「成長実感」、「能力獲得実感」を問うている。緒言にて示したとおり、2023卒業生は現在のDPの下で編成されたカリキュラムで4年間の教育を受けた、新カリキュラム3期生である。2018入学生から適用された新カリキュラムの構成理念の1つは、大学・学部共通の専門科目というカテゴリーを設け、大学の教育目的のメッセージ性を持った科目を置き、DPとの整合性を取りやすくするといったことがあった。例えば両学部共に「倫理学概論」「哲学概論」を学部基礎科目群に置き、大学の教育目的に該当する科目として位置づけている。前回2022調査で、大きく「成長実感」できた観点に、初めて「倫理観(Q11)」が入ったが、今回2023調査でも「倫理観」の全学平均値は最高位となるなど、この傾向は継続していると言える。今後さらにモニタリングを続ける必要があるが、さらに継続的に出現するようなら、2018カリキュラム設置のねらいの一端は達成できたと評価できるだろう。

また、学科間差異が大きい項目と判断できる項目は、2021調査では、0.3以上差異基準で4観点、2022調査では7観点あり、そのうち2つ(Q2, Q14)は0.5以上の差異があった。今回2023調査では、同差異基準(0.3以上)で、やはり7観点あり、そのうち1つ(Q14)は0.5以上の差異があった。

加えて、学科による相違が顕著に検出される結果となり、前回2022調査は、特に法ビの低さが目立ったのに対して、今回2023調査では、法律と法ビの高さと心臨と人文の低さが特徴的で、あくまでも相対的な比較であるが「法高人低」の傾向にあった。特に法律は14観点全てで最頻値4であったことは、特筆すべきであろう。今回対象となった2023年度卒業生は、2020年度入学生より導入した入学後の学科分属制度(レイトスペシャライゼーション)のもとで教育を受けたいわば1期生であるが、この好影響の発露と判断するには拙速に過ぎるかもしれないが、もしもそうなら歓迎したい。今後の推移を注意深く見ていきたい。

さらに、既に述べた通り、2023年度入学生からは新カリキュラムがスタートしているが、この新カリキュラムでは特に共通教育と専門教育の連続性、換言すれば現代的な教養教育の充実に力点が置かれている。こういった新しく適用される教育プログラムの適切性や効果性の評価は、決して容易なことではなく、本来的には多面的に判断されなければ成らないものであるが、この調査が扱っている学習者自身の「獲得実感」といった側面は、その本道からはそう遠くないところにあるだろう。いずれにしても、以後、質問項目を維持しつつ継続的にモニタリングを続け、従前の結果との比較等を行うことで、本学の教育の成果と達成度に関する貴重な資料が得られると考える。

最後に、2023調査の回答率は96.4%で、未回答者はわずか13名であった。回答に協力してくれた卒業生及び回答率向上に尽力頂いた関係各所に記して謝意を表したい。

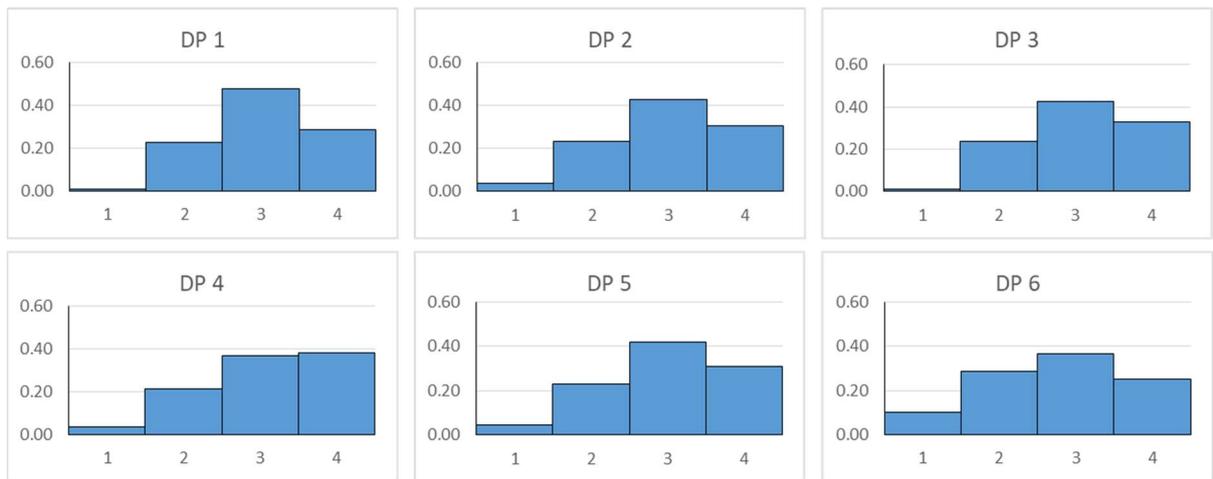


図1 [2018 調査]

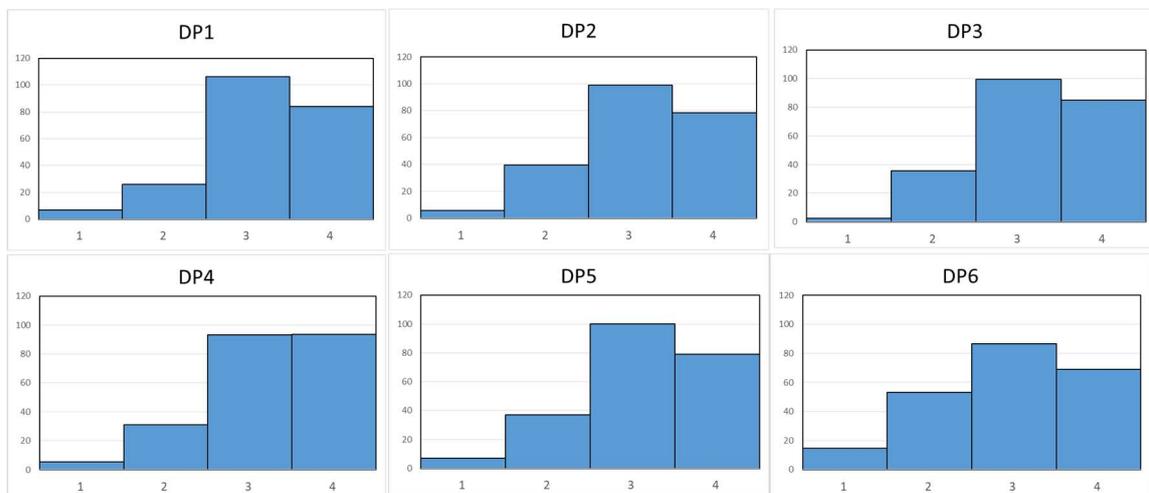


図2 [2019 調査]

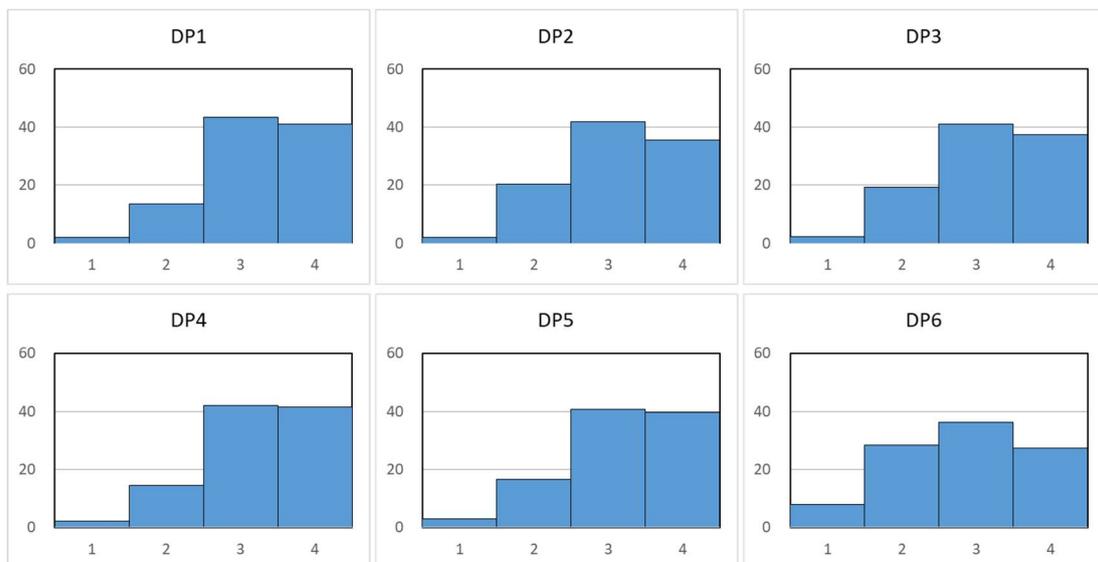


図3 [2020 調査]

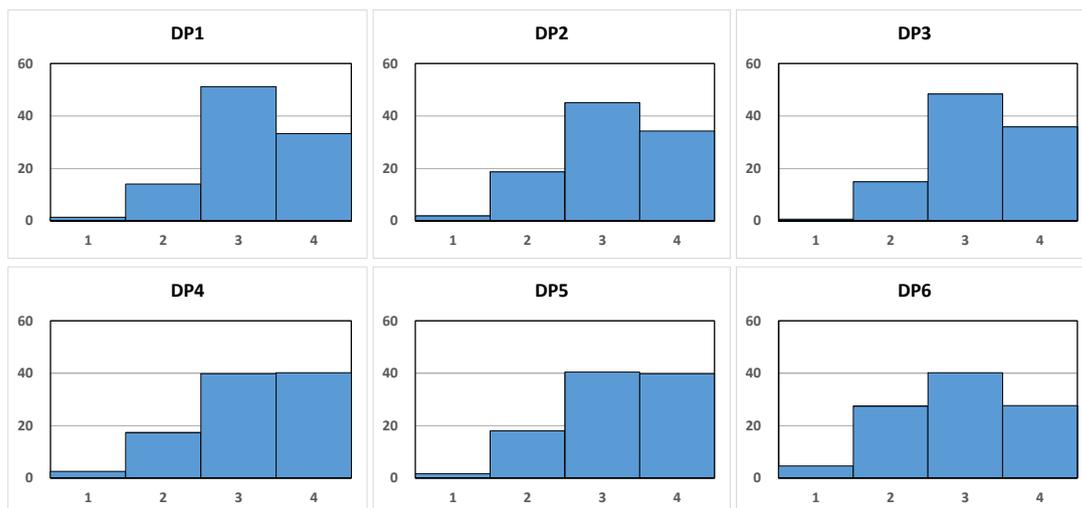


図4 [2021 調査]

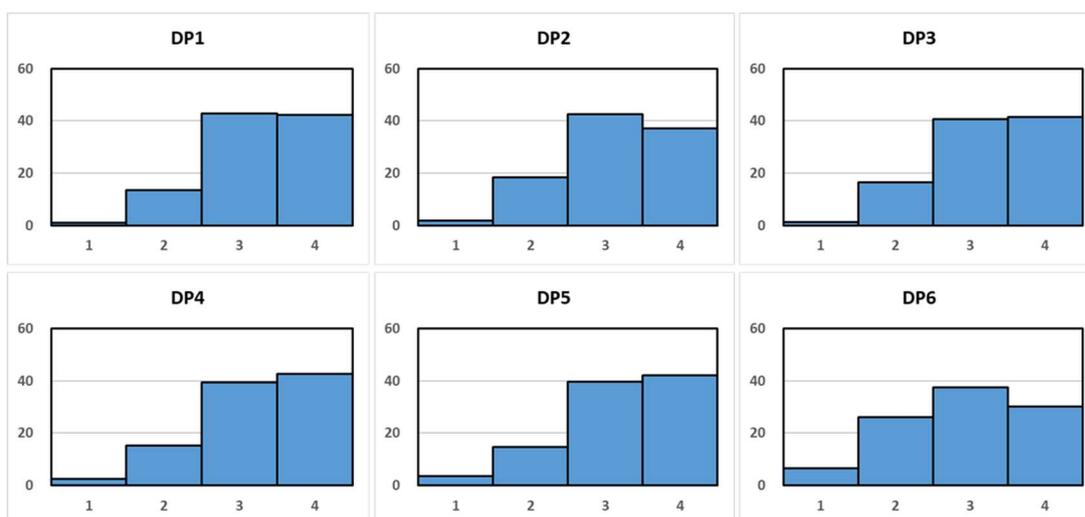


図5 [2022 調査]

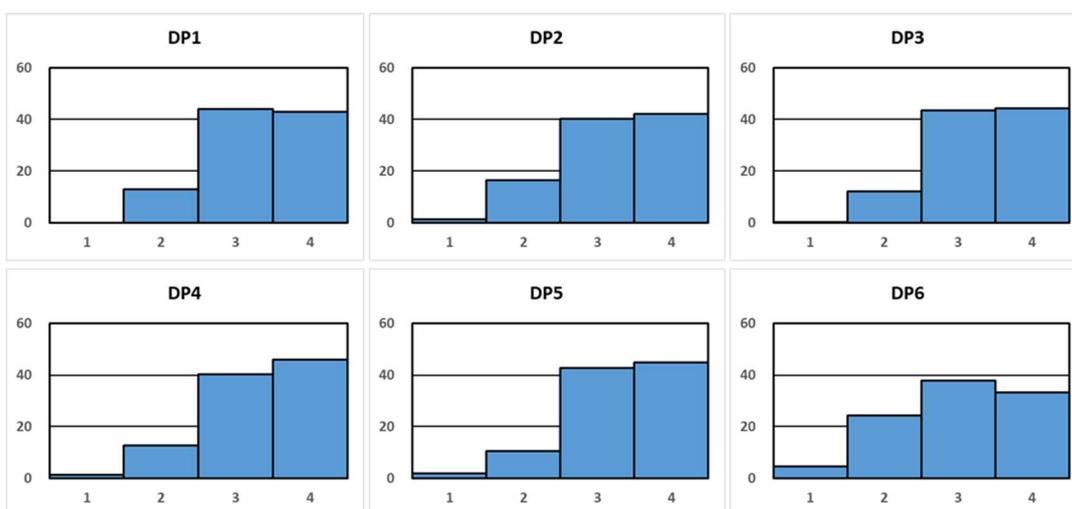


図6 [2023 調査]

## 【付録】

### 志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性，自主性，創造性が身についている。
- 2 人類の文化，社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法，情報処理技術，コミュニケーション能力を身につけ，自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ，総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 多様な言語・社会・文化を理解し，国際人として活躍する素地を持っている。

### 志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） 2023年度改定

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性，自主性，創造性が身についている。
- 2 人類の文化，社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法，情報技術，コミュニケーション能力を身につけ，自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ，総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯を通じて学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 世界の言語・社会・文化を理解すると共に，多様な人々と共生・協働できる素地を持っている。

### 2023年度 DP 改定に伴い 2024 調査から適用される設問

- |     |                             |
|-----|-----------------------------|
| DP1 | Q1. 個性的かつ堅実な人間性，自主性，創造性     |
| DP2 | Q2. 人類の文化，社会と自然に関する教養       |
|     | Q3. 物事を科学的に，論理的に考える方法や力     |
|     | Q4. コンピュータの操作方法や情報技術        |
|     | Q5. コミュニケーションの能力            |
|     | Q6. 自ら学ぶことが楽しく，喜びであると感じる姿勢  |
| DP3 | Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能     |
|     | Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力    |
| DP4 | Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え  |
|     | Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力    |
| DP5 | Q11. 倫理観                    |
|     | Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 |
| DP6 | Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解      |
|     | Q14. 多様な人々と共生・協働できる素地       |

主たるカリキュラム改編, 各種制度の導入歴

適用	卒業初年度	概要
2018年度	2021年度	<b>専門教育科目の再体制化</b> ・4学科とも専門教育科目に「学部基礎科目」群を置き「哲学」「倫理学」等を配置。その中に人間関係学部では、法学、政治学、社会学等を、法学部では「入門科目」群として各法入門科目と経営学科目を配置。
2020年度	(遡及) 2023年度	<b>ESDプログラム導入</b> <b>法学部学科分属制度導入</b>
2023年度	2026年度	<b>共通教育と専門教育の接続性の強化</b> ・卒業要件単位数の3部構成化。 ・共通教育に「導入科目」群, 教養科目に「教養基礎科目」群の設置。
2024年度	(遡及)	<b>Society5.0基礎プログラム導入</b> 教養基礎科目群に「ファイナンシャルリテラシー」配置。